

新医療センターのポイント

奥州市

総合診療の視点を軸とする新たな医療拠点とします

◆総合診療とは

- ・症状があるが、どこの何の病気かわからない患者さんを診療する。
- ・風邪・インフルエンザ・ケガなどの症状を幅広く診療する。
- ・高齢者が訴えるさまざまな症状や不安にトータルで対応する。など、
「あなたの診療なら任せとけ！」という患者さん主体の立場で行う医療です。



熱が出た
おなかが痛い
発疹が出た
転んでケガ
眠れない
高血圧・糖尿病
物忘れがひどい

ガンではないかと心配
予防接種はどうしよう
タバコをやめたい
介護相談がしたい
自宅で療養したい
自宅で余生を過ごしたい

病気だけではなく予防や健康まで



患者さんを多角的に診る

家族や生活背景まで診る

地域全体を診る

回復期を重視した多機能型の医療を提供します

◆回復期とは

容体が危機的な状態である急性期を乗り越えてからの期間です。

身体の機能の回復を図る時期であり、また、以前の生活に戻るための期間でもあります。

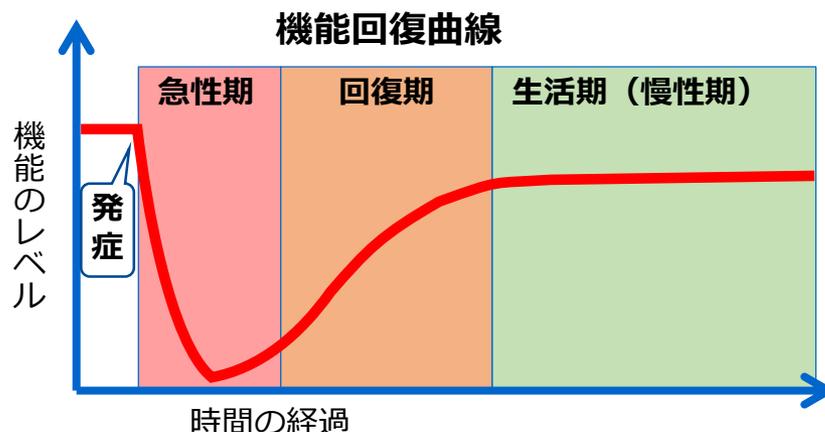
◆重視する理由は

高齢化が進み、胆江圏域の回復期医療が不足すると見込まれているためです。

◆多機能型の医療とは

今後、複数の病気を抱え、通院が困難な高齢者が増える見込まれます。

総合診療の視点により、初期救急や亜急性期から回復期・慢性期、在宅医療まで、複数の機能による切れ目のない医療を提供します。



入院から在宅までこなせる医療体制を構築

具体的には

- ・回復期リハビリテーションの強化
- ・訪問診療の拡充・機能強化型の訪問看護ステーションの設置など

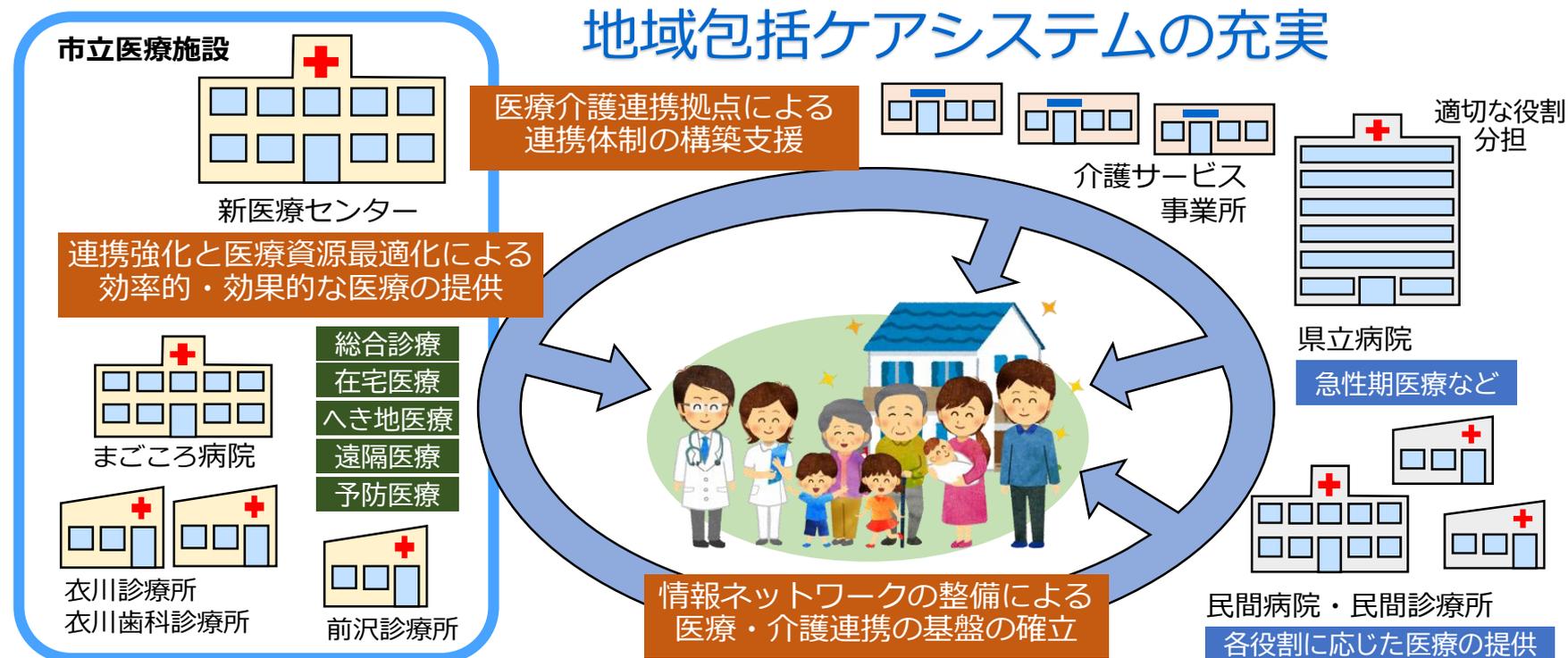


地域包括ケアシステムの充実に寄与します

◆地域包括ケアシステムとは

「医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した生活を続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される」という考え方です。

新医療センターは、この充実に寄与します。



医療・保健・福祉が連携した市民サービスを提供します

◆母子・子育て支援サービスの提供

- ・産前産後ケアの強化（日帰り・宿泊ケアの専用部屋の設置など）
- ・子育て相談の強化
- ・病後児保育の実施
- ・子どもの遊び場の設置
- ・青少年の性の健康問題の対応や医学的ケア
（正しい性知識の普及、関係者の情報共有の場、相談やカウンセリングへの結びつけ等）



など、周産期から子育て期にわたる多様なニーズに応えるサービスを提供します。



◆健康ニーズに応えるサービスの提供

- ・栄養（食・口腔）、運動、社会参加の3つの柱による高齢者のフレイル（虚弱）の予防
- ・デジタル活用による受診勧奨など健診事業の強化
- ・健康相談、健康教室、居場所づくりなどの健康増進事業
- ・口腔健診や講座など口腔ケアの推進
- ・人間ドックによる健康チェックなど予防医療の充実
など、健康寿命を延ばすためのサービスを提供します。



Q 新医療センターに産科（分娩機能）を設けることはできないの？

A 産科設置には、複数の産科医のほか小児科医や麻酔科医の連携が必須です。

このため、新医療センターに分娩機能を設けることは、**極めて厳しい状況です。**（右のコラム参照）



このように、新医療センターの開所時に分娩機能を設けることはできませんが、同センターを拠点として、

健診体制や産後ケアの強化など、妊産婦の不安と負担感を解消するための施策を充実させます。

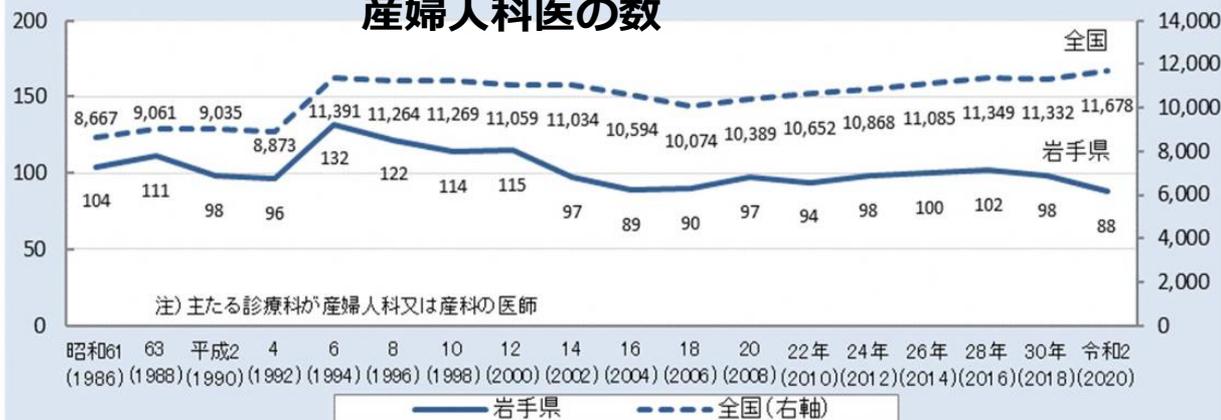
岩手県の周産期医療の現状は

県立中部病院 第1産婦人科長

秋元義弘先生からの解説（要旨）

- ・岩手県の産科医は年々減少を続けている。
- ・お産は365日24時間の対応。複数の医師やバックアップ体制がないと安全なお産はできないし、医師も来るわけがない。
- ・よって、産科医が1人いればどうにかなるなどという問題ではない。
- ・院内助産所も同様。産科医のバックアップなしに分娩などできない。
- ・妊産婦の支援策を講じることで出生率はあがる。その方向で何をすべきか考えるべきではないか。

産婦人科医の数



Q 新医療センターの病床規模の80床って少なすぎない？

A 胆江医療圏の医療需要は今後減少していきます。現在の病床数と2025年（令和7年）の必要病床数を比較すると**200床を超えて過剰**となる見込みです。

新医療センターは、この需要予測を踏まえ、80床を検討の基本とします。

今後、診療科の構成や経営的な観点から適正な規模を検討し、**基本計画で病床数を決定**します。

【胆江医療圏の機能別病床数と必要病床数】

病院機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床等	合計
平成30年 病床数	0	757	115	546	19	1,437
令和7年 必要病床	84	357	312	445	-	1,198
差 引	▲84	400	▲197	101	19	239

出典：H28岩手県地域医療構想、H30病床機能報告

Q 新医療センターの整備場所は決まったの？

A 利用者の利便性、まちづくり拠点としての可能性、財政負担の低減などの観点から、「**水沢公園陸上競技場とその周辺**」を最適地と考えます。

今後は、この場所を前提として、基本計画を策定します。



出典：国土地理院撮影の空中写真（2016年撮影）